

清水市長との懇談と署名の提出 …学童保育の充実を求める陳情署名

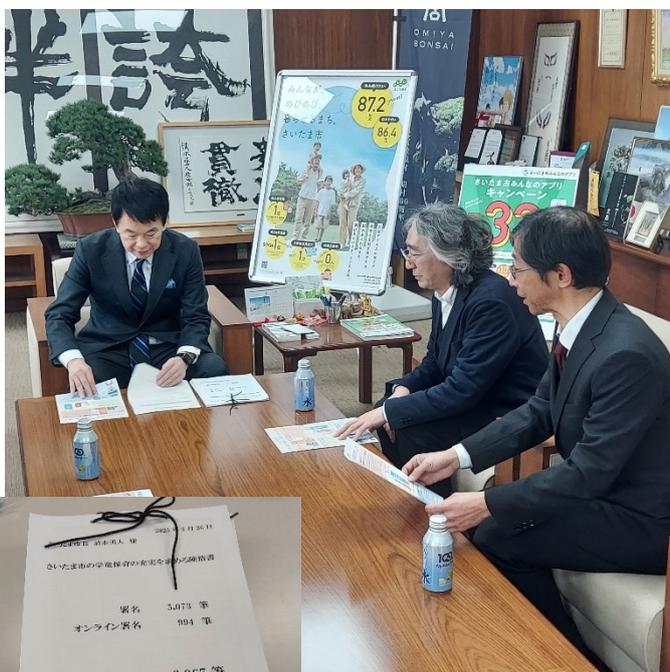
先週2月26日、市連協会長、事務局長、および指導員会長、労組執行委員長とで市長との懇談に赴き、秋から市連協で取り組んでいた「さいたま市の学童保育の充実を求める署名」6067筆を手渡ししてきました。当初12月中の提出を予定していましたが、市長の多忙につき2月までずれ込んでしまった形です。15分ほどの短い時間でしたが、さいたま市の学童保育が抱える課題について伝えてきました。

署名は委託金の増額を求める内容ですが、この間さいたま市では、国の補助金を活用して常勤2名以上の職員を配置した場合に200万円を超える委託金の増額枠が予算化されたという経緯があります。事務局長からはまずそのことについて感謝を伝えると同時に、国の補助金の要綱のままでは現場の実質的な人手不足の解消や保育料の軽減につながっていない状況であることを伝え、さいたま市としても対策をとってもらえるよう求めました。

これに対する回答は、市として国に対して意見を上げていく、という内容で、最低限国への姿勢について言及したものの、さいたま市単独で対策をとる方向性はない、ということも見えてきました。

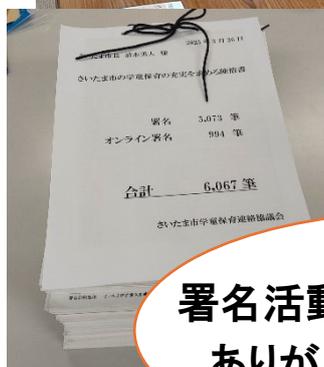
また、今回の署名のテーマとはなっていませんでしたが、さいたま市放課後子ども居場所事業についても触れ、モデルケースが実施される学校区にある民設クラブで児童数の減少が起きていること、それによってクラブの運営が困難になることや支援員の失職が起きていることも伝えました。

市長からは、民設クラブへの支援は担当課と相談しながら検討していく、という回答がありました。併せて今後、居場所事業と民設クラブを両立させていきたいという方向性を改めて示し、居場所事業の推進に対する意欲を感じる回答となりました。



もう一押しの活動を

先にも書いた通り今年度は委託金の増額という一つの（予算規模だけで言えば非常に大きな）成果がありました。それがしっかりと形として現場に届き、私たちの抱える課題の解決につながるにはもう一押しの活動が必要です。さいたま市を動かすべく、引き続き市長・担当課など行政や、議員に対しての働きかけを続けていきましょう。



**署名活動にご協力いただき
ありがとうございました!!**